
雪やこんこ

らいらいさん（風）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪やここんこ

【著者名】

Z3869P

【作者名】

りこいらこわん（風）

【あらすじ】

子供向けかもしねない

すゞくすゞく昔のある冬の日の出来事です。

一匹の子猫が降り積もった雪の中で飛び跳ねて遊んでおりました。今でこそ雪が降ればこたつの中で丸くなると言われている猫ですがすごくすごく昔の猫は雪が大好きでした。

氷に映る自分の顔や雪についた自分の足跡を眺めていると。大きな木の下に一人の大きい男が立っている事に気付きました。人間から見ればちょっと背が高いくらいの男ですが、子猫から見ればそれはそれは大きい男でした、鎧兜に身を包んでおり、険しい顔をしていました。

子猫はその男がどうしても気になってしまい、近寄つて尋ねました。

「もし、あなたはこんなとじりで何をしているのです？」

男は子猫に気づくと、険しいながらも笑顔を見せ。

「おお、この時期に私以外のものに会えるとは、私はつい先ほどまで雪を降らせておつたのだ」

と、言いました。

猫はそれは驚いて、高ぶる気持ちを抑えきれず、少し大きな声で聞き返しました。

「本ですか！？ 本当にあなたがこれを降らせたですか！？」

「いかにも、それが私の仕事だ、だが私が仕事をするとほとんどの生き物は動かなくなったり、すみかに閉じこもつたりしてしまひ」

男はそういうて少し悲しそうな表情を見せました。

「それは寂しいですね……そうです！ 僕があなたと遊べばいいのです！」

「私ど？」

「そうです！ こんなに頑張ったのに一人なんてかわいそうです」

子猫は足もとの雪を巻き上げながら言いました。それは太陽の光

を受けキラキラと光りました。

「ははは、ありがと……ハックション！」

男を中心と/orも強い風が巻き起こりました。子猫は吹き飛ばされそうになりましたが頑張つてこらえました。

「危なかつた……むぎゅ」

子猫が安心したのもつかの間、もみの木から雪の塊が落ちてきて子猫を押しつぶしてしまいました。

「すまんすまん、大丈夫かね」

男は急いで雪の小山から子猫を救いあげました、しかしまた。

「ハーツクション！」

再び男を中心につむじ風、子猫は男の手に捕まり必死に耐えました。

「だ……大丈夫ですか？」

「わからぬ……君が近くにいるどどくしゃみが出てしまうのだ」「困りました……そうです！ 友達の犬君を連れてきます！ 犬君と一緒に遊ぶといいです！」

子猫は早速近くに住んでいる犬君に声をかけました。犬君も雪が大好きだったので、男と一緒に遊ぶことにしました。

しかし、やはり自分が近付くと男はくしゃみをしてしまいます。自分はいいのですが、犬君や周りの草木を吹き飛ばしてしまします。くしゃみをする男もとても辛そうです。

「僕もう帰ります」

「……すまん」

「気にすることないです、犬君、あとは頼みました」

「わかったよ、今日は僕と/orも楽しい」

体中を雪まみれにしながら犬君は言いました。

「あなたの名前はなんて言つのでしょうか？」

「私は冬将軍、雪を降らせ、風を巻き起こすことが仕事だ」

子猫は家に帰りじつとしている事にしました。冬将軍の近くに行くとくしゃみをしてしまい、強い風が吹いてしまうからです。

犬君は冬将軍の遊び相手になり冬が来るたびに彼と遊ぶことにしました。

これが冬になると犬は庭を駆け回り、猫はこたつに入り浸る理由です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3869p/>

雪やこんこ

2010年12月9日01時54分発行